

3. ちょっといい話

(1) 着地型エージェントの事例紹介

① 幡多広域観光協議会

概要

高知県幡多地域の7市町村（四万十市（旧中村市・旧西土佐村）・土佐清水市・宿毛市・佐賀町・大方町・大月町・三原村）が「教育旅行を広域的に実施できる地域づくりに取り組む」ため、1993年に設置した。高知県、幡多広域市町村圏事務組合と連携して取り組んでいる。

事業内容

地域内の観光メニューの創出や修学旅行の誘致を目的とした事業を展開している。

1. 誘致活動や情報提供
2. 受入施設との調整
3. 現地視察と修学旅行の案内など

具体的には、協議会が発行している体験学習プログラム冊子やホームページに記載し幅広くPRを行う、修学旅行の誘致時に大手旅行代理店や各学校に直接働きかけを行う、幡多地域に残されている自然を活かした体験観光や交流プログラムの開発を順次行うなどの事業を進めている。

旅行出発前の出前授業を実施するなどのユニークなサービスを実施して、イメージアップとリピーターの獲得に結びつき「広域観光のモデル」と評されている。

実績

2005年度、32校4,500人を受け入れ。直接的経済効果は約1億2千万円と試算されている。

参考) 体験プログラムの内容

約60の体験プログラムの構成は、以下のとおり。各プログラムについて、概要、所要時間、受け入れ可能人数、受け入れ時期が明記されている。このほかにも、地域によって若干のプラスアルファがある。

<環境・自然体験> 12プログラム

「ホイール&イルカウォッチング」「自然循環方式水処理システム“四万十方式”」
「トンボ自然公園生物観察」など

<スポーツ体験> 8プログラム

「竹イカダくんだり体験」「マンボウスイミング」など

<歴史・伝統体験> 7プログラム

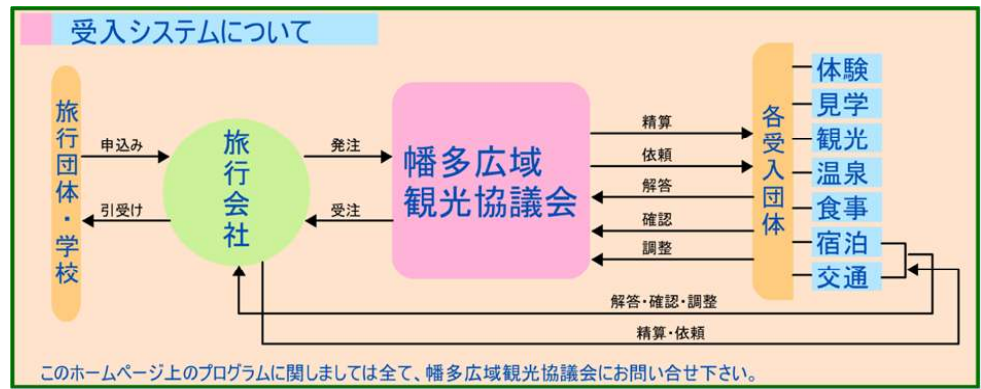
「四国霊場めぐりお遍路さん体験」「ジョン万次郎漂流体験」など

<産業体験> 7プログラム

「定置網（大敷網）体験」「柑橘栽培・収穫体験」など

<生活・文化体験> 12プログラム

「完全天日塩づくり体験」「魚釣り・干物づくり体験」「田舎暮らし体験」「土佐文



② 株式会社南信州観光公社

経緯

体験型観光による地域振興を目的として、2001年1月、飯田市、阿智村、喬木村、浪合村、平谷村の5市町村と、JAみなみ信州、信南交通をはじめとした10の地元企業・団体の出資により、第3セクターとして設立された株式会社。現在は出資者が増え、下伊那18市町村全てのほか、18の地元企業・団体となっている。資本金は2,965万円。

前身は1995年に飯田市の商業観光課などが中心となって発足した「野外教育プロジェクト」で、通算すると10年以上の歴史をもつ。

事業内容

体験教育旅行をはじめ企業研修、グループ旅行、カルチャー・セミナーなどで南信州を訪れるツーリストを対象としたコーディネーター・手配を行っている。体験メニューは約160と豊富で、「本物体験」のコンセプトとそれに忠実なメニューづくりが好感され、事業が急拡大している。

実績

「野外教育プロジェクト」の初年度にあたる1996年度は55のプログラムでスタートし、3つの学校が利用した。2005年度は、163のプログラム、200団体（うち学校110校）の利用、プログラム体験者数3万9千人となっている。

参考) 目的別モデルコース

同社のHPでは10個のモデルコースが紹介されているが、そのうち主なものをここに紹介する。

★交流中心コース(中学校、高等学校修学旅行向き)

農家ホームステイを柱に地域の様々な人との関わりにより成り立つプログラムを選択し、地域の人々との交流を中心としたコースです。

★乗馬検定&厩務生活コース(高等学校宿泊研修、企業研修向き)

乗馬はもちろん厩務作業も泊りがけで行う馬中心のコース。検定試験もあり達成感も極めて高いうえ、日常とは違った生活の共有体験は将来にわたる宝物になります。

★本物のスローフード・スローライフに浸るコース

味噌、甘酒、鶏ウィンナー、燻製、こんにやく等を半日～1日がかかりで農家の人達と材料から手作り。炭焼きは3日～1週間かけて木の切り出しから釜入れ、火

の番に至るまで全ての過程を体験する。気象条件により日数が変わります。農家の持つ生活技術にも感嘆する。

★素材集めからの草木染コース

草木染を1日がかかりで山野から素材を収集するところから始めるコース。

★オリジナルの着物作りに挑戦する紬の機織コース

飯田紬の職人の指導を受け、日数をかけて自分でオリジナルの着物を完成させる。

参考) 体験プログラムの内容

約 160 の体験プログラムの構成は、以下のとおり。各プログラムについて、概要、所要時間、受け入れ可能人数、受け入れ時期が明記されている。

＜環境学習＞26 プログラム

「里山の今昔と植物」「化石から伊那谷を見る」「地域環境運営システム“いいむす”に学ぶ”など

＜自然体験＞17 プログラム

「中央アルプスの名峰 摺古木山(2,169m)登山」「黒川溪谷ハイキング」「ナイトスノーウォーク」など

＜案内人と行く散策コース＞4 プログラム

「桜守の旅」「和菓子探訪」など

＜スポーツアクティビティ＞13 プログラム

「乗馬（日本トレッキング）」「ラフティング（天竜川）」「グラウンドゴルフ」など

＜アドベンチャープログラム＞1 プログラム

「豪快な秘境万古溪谷沢渡り」

＜味覚体験＞26 プログラム

「たけのこ掘りとたけのこ料理」「薬草と薬膳料理」「りんごジャム作り」など

＜農林業体験＞17 プログラム

「りんごの摘果・袋かけ」「養蚕作業」「農家民泊」など

＜ボランティアプログラム＞8 プログラム

「秋葉街道補修復元作業」「ホームヘルプ活動」「桜保存作業補助」など

＜伝統工芸・クラフト創造＞20 プログラム

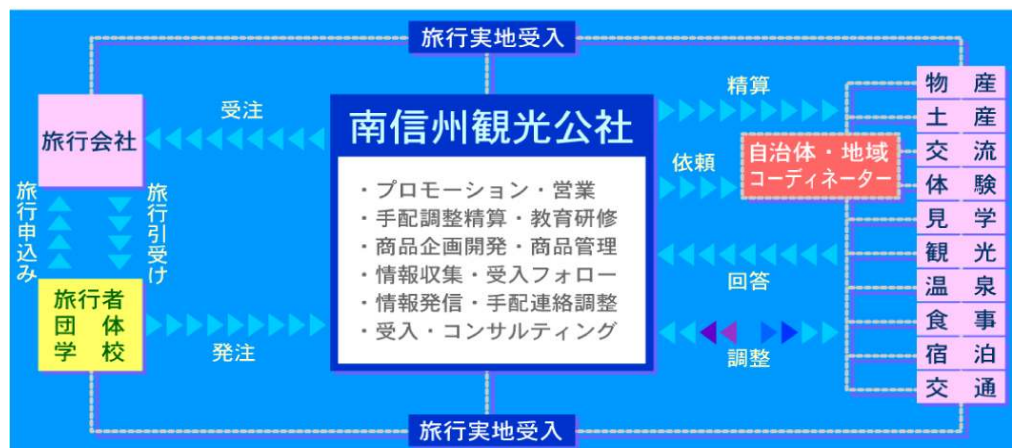
「水引工芸」「土笛作り」「阿島傘づくり」など

＜観光見学＞23 プログラム

「天竜舟下り」「伊那谷道中」など

南信州観光公社の体験旅行受け入れシステム

南信州体験旅行受入システム



③ 三重県観光販売システムズ

経緯

2004年7月に三重県で設立された任意団体。

中部圏では、2004年に熊野古道の世界遺産登録や芭蕉生誕360年イベントの開催、2005年に中部国際空港の開港や愛知万博の開催を控えていた。

この機会に「誘客のチャンスを十分に活かし、持続的な観光入込客の確保が図れるよう、本県の観光素材だけを取り扱い、効率的に企画観光商品としてまとめ上げ、販売する観光事業者の自主組織」として設立されたものである。現在は、幹事旅行会社6社（下記にリストアップ）、会員旅行会社38社で構成している。

特徴

三重県内に限定した広域的な展開、地域と共同での企画観光商品の開発が目的、観光事業者のみの任意団体、といった点が特徴といえる。

事業内容

幹事社のひとつである三交トライバル株式会社内に専従職員数名の事務局を置き、地域の観光商品開発についてのアドバイス、企画づくりを行って、会員旅行会社に販売する、といった事業を展開している。補助金は3年間限定で各年1,750万円、会員社の運営負担金等はない。販売手数料などの収益を増やして、補助金のなくなる2007年度以降も自立的に活動していくこととしている。

実績

発足当初から県の2004年度予算の中の重点プログラムの一つ“観光商品づくり推進事業”の補助対象事業者となっており、2005年7月の県政報告書では、“三重県観光販売システムズ”の組織・体制等の機能を活かすことで、22件の観光商品の提供が行われたこと、この延長上で、今後3年間の数値目標を概ね達成できると見込まれることが報告されている。

参考) 三重県観光販売システムズ幹事旅行会社

- 近畿日本ツーリスト株式会社中部商品事業部
- 三交トライバル株式会社
- 株式会社ジェイアール東海ツアーズ中部営業部
- 株式会社ジェイティービー中部国内商品事業部
- 株式会社日本旅行赤い風船中部事業本部
- 名鉄観光サービス株式会社国内旅行部

(2) 瀬戸内の“名前”いろいろ

瀬戸内海地域における観光資源の命名のうちで、ちょっと気になるものをいくつか例示的に列挙する。新しい名前と内容を考えるための参考となる。

ここで挙げたのは、イベントや商品などの名称である。

| 名称 | 概要 | 観光資源の命名の例 | |
|---------------------|---|-----------|-----|
| | | 市町村 | 県 |
| 遊SEA牛窓エーゲ海フェスティバル | 牛窓の海の幸、山の幸の展示販売や牛窓の祭りの踊りなど。朝鮮通信使行列もある。 | 瀬戸内市 | 岡山県 |
| おひな同窓会 | 児島一番の邸、野崎家旧宅の非公開のたい暇堂において、町民のおひなを百畳敷きの大広間に30組並べ、めずらしいごてんびなを中心に展示。 | 倉敷市 | 岡山県 |
| 屏風祭 | 美観地区で阿智神社の秋祭に合わせて、各家が屏風等を飾り、通行人に見ていただく（江戸時代にしていた風習を復活）。 | 倉敷市 | 岡山県 |
| 夢あかり | 屏風祭の夜、倉敷川にローソクを浮かべ、幻想的な空間を創る。 | 倉敷市 | 岡山県 |
| アリスガーデンパフォーマンス広島AH! | 広島都心部において、パフォーマンスステージ及びオープンカフェテリアを毎月1回実施。 | 広島市 | 広島県 |
| 言の葉さらさら事業 | 七夕祭り事業プロジェクトに参加。広島港旅客ターミナルについて乗降客1500人を対象に短冊に記入し20年後の姿のアンケート調査を実施。 | 広島市 | 広島県 |
| 久井ウッシッシ祭り | 西日本三大市場に数えられたという久井の牛馬市の再現をメインコンセプトとした商店街の祭り。牛のイメージキャラクターを各商店等に設置し、当時の賑わいを再現する。（岩海まつりと一年ごとに交互に実施） | 三原市 | 広島県 |
| 「ぶちええ竹原」来て・見て・買って! | 特産を活かした商品開発やイベントなどで、ぶちええ（すっごくいい）竹原をPRするキャンペーン。オリジナルのちゃんこ鍋、クッキーなどを発表。 | 竹原市 | 広島県 |
| ピースフル・エコ・アイランド大久野島! | 子どもから高齢者まで参加できるクロスカントリー大会、ごみ清掃などの実施。ビジターセンター・毒ガス資料館などを活用した平和・環境学習をすすめ、集客を図る。 | 竹原市 | 広島県 |
| 万葉火（万文字焼） | あきつフェスティバルのメイン行事に選定されて京都の大文字焼に習い全296mの万の火文字を73の火床で薪4トンを約25分で燃え尽きさせる壮大な火まつり。 | 東広島市 | 広島県 |
| ようこそ醸華町西条 | 土・日・祝日に毎回2社程度の蔵元が酒蔵を開放。酒の販売、試飲、酒づくりの様子展示などが行われる。 | 東広島市 | 広島県 |
| 瀬戸内しまなみ大学 | しまなみ海道周辺地域を大学のキャンパスに見立て、生涯学習講座を実施。現在しまなみ海道沿線を中心に約2300人が登録平成16年度より小学生とその保護者を対象としたしまなみ大学附属小学校講座を開設。 | 尾道市 | 広島県 |
| 島〴〵マップ作成 | しまなみ大学の講座の一環として、地域住民を中心にワークショップを開催し、島自慢のマップを作成する。生地口島高根島編、因島細島編、向島岩子島編、尾道百島編が作成済み（国交省事業）。 | 尾道市 | 広島県 |
| 小日本ぶちうま鍋 | 地元の農産物特産品を使った鍋会。河川敷でグループで楽しむイベント。 | 下関市 | 山口県 |
| のんた湯さ来いネット | 周防大島町内5湯めぐり、通常3,700円を1,500円という約6割も安く提供し、皆さんに温泉につかってもらおうという企画。 | 周防大島町 | 山口県 |

| | | | |
|---------------------|--|------|-----|
| 大正ロマン女人のまつり | 宇野千代の故郷で代表作「おはん」をイメージして古い町並みの残る城下町を大正時代の着物で 200 名の女人達がパレードする。今回第六回を企画している（年 1 回）。 | 岩国市 | 山口県 |
| 大正ロマン着物レンタル | 古い町並みの中で大正時代の着物を着て町や錦帯橋を歩いていただく。「ぶらり城下町」の集客につなげたいと願っている。 | 岩国市 | 山口県 |
| 岩国錦帯橋散策得帳（〇得帳） | 協賛していただいている施設へ得帳（〇得帳）を提示すると割引の得点が受けられる。 | 岩国市 | 山口県 |
| 遊巢膳 | 地産地消の郷土料理。山口県産の米、岩国特産のれんこん、地域の野菜等。地域で生まれ育ったものを地域のおばちゃんの手作りで語り聞きながら食べるおふくろの味。 | 岩国市 | 山口県 |
| スターライトファンタジー in 虹ヶ浜 | 自然海岸の高度利活用を目的とした集客イベント。日本発となる本格的なナイター海水浴場の開設やビーチでのコンサート、レーザーや噴水を駆使したウォーターショー等を行い幻想的な空間を演出する。 | 光市 | 山口県 |
| アートふる山口 | 毎年秋に、街がまるごと美術館に。山口市内の「一の坂川」「堅小路」筋周辺の民家やお店など約 60 軒を手作りの小さな美術館に見立て、懐かしいものなど様々な展示品を公開する。あわせて、魅力的なイベントを同時開催する。 | 山口市 | 山口県 |
| まちじゅうデニム | デニム製品生産で全国トップクラスの山口を発信するため、イベントを通して、まちづくりを実施中。ファッションショーなど | 山口市 | 山口県 |
| 花・香・遊（はなこうゆう） | 地元女性グループ自遊倶楽部による春のイベント。毎年三月中旬に開催。香道・和装・花などを素材にしている。 | 柳井市 | 山口県 |
| ひょうたん島周遊船クルージング | 徳島市内中心部をとりまく新町川・助任川を 1 周する約 30 分の無料クルージングを行っている。原則として毎日運行している。 | 徳島市 | 徳島県 |
| 鳴門市ハマボウまつり | 塩田の変遷とともに姿を消したハマボウを惜しむ市民が市の花に選定し、1 万本復活運動を成功させた。毎年 7 月をハマボウ月間とし、鑑賞ポイント（30）交流・接待所（5 箇所）を開設して地域ぐるみのイベントに育てている。 | 鳴門市 | 徳島県 |
| どじょう輪ピック | 市内の各地域から集まったグループが、伝統と経験を生かしながらどじょう汁（うどん）を調理し、味の差を競い合う。 | さぬき市 | 香川県 |
| まほろば祭 | 吉備路古墳群、桃太郎、温羅伝説など歴史・史跡のお宝満載の「まほろば高松」の祭り。 | 高松市 | 香川県 |
| 朝とれ、朝市 | 瀬戸内の美味しい魚介類の販売。イベントとして同時に個人向けのセリ市も実施。当日の朝とれた活魚にこだわり。季節の旬の味を届けている。 | 仁尾町 | 香川県 |
| 醤の郷（ひしおのさと） | 地場産業の醤油、佃煮、醤油蔵の町並み景観等を活かした産業観光に取り組んでいる。 | 土庄町 | 香川県 |
| 夕やけプラットホームコンサート | 日本一海に近い JR 下灘駅の無人化に伴い予讃線海岸回りの存続と、双海町を日本一美しい夕日の町として市内外に印象付けた手づくりのコンサート。 | 伊予市 | 愛媛県 |

(3) 環境にやさしい宿泊施設の取り組み事例

宿泊施設における環境負荷低減の事例として、エネルギー、リサイクル、建築物、食材の分野において先進的な取組を紹介する。

ここで紹介する内容は、主にインターネットのホームページを参照してとりまとめたものである。

① エネルギーシステム

○蓄熱式空調システムの導入

- ・ 夜間電力を利用して氷をつくり昼間の冷房に利用する氷蓄熱プラントを導入(事例は多数)

○コージェネレーションシステムの導入

- ・ コージェネレーションシステムを導入し、重油は対前年で2.5万リットル削減(星野リゾート/長野県)

○水力・地熱の利用

- ・ 水力発電と地熱を利用したエネルギー供給している。ホテルの敷地内を流れる湯川の水を利用し3機の発電機を使って水力発電を実施し、使用電力の80%を賄っている。温泉排湯に地中熱を組み合わせた熱源システムを採用。この結果75%のエネルギーが自給可能になった(星のや/軽井沢)

○風力発電

- ・ 能登ロイヤルホテルでは風力発電機2基が稼動中。この2基で得られる電力量は、年間で約150万キロワット。ホテル施設で消費される全電力量のおよそ3分の2以上を賄う(能登ロイヤルホテル)

○燃料電池の導入

- ・ クリーンエネルギーである天然ガスを燃料とし、電気とその排熱を給湯に利用し、年間電力需要の87%、給湯需要の79%(H13年度実績)を燃料電池でまかなう(名古屋栄ワシントンホテルプラザ)

○太陽光発電

- ・ 灌水設備の電気供給を行っている(田貫湖ふれあい自然塾)

② 廃棄物の削減・リサイクル

○廃食油の燃料化

- ・ 食用廃油とA重油を混合しボイラー燃料に再利用(札幌グランドホテル)
- ・ バイオディーゼル燃料(BDF)事業に参画、廃食用油から精製された燃料を送迎バスに利用(星野リゾート/長野県)

○中水リサイクル

- ・ 排水からゴミを除去しタンパク質、油分を微生物の力で分解するシステム。1日約1,000トンの厨房排水から最大で600トンの中水を作り出している。リサイクルした中水はトイレ洗浄用水、散水、洗車用として利用されている。(ホテルニューオータニ)

○食品廃棄物のリサイクル化

- ・ 稲取温泉には23軒の旅館があり旅館から出される食品廃棄物の総量は1日あたり約3トンにもものぼる。食品リサイクル法の制定を期に、国内で初めて旅館協同組合単位でゴミのリサイクル、環境

問題に取り組んでいる(稲取温泉旅館協同組合/静岡県)

○環境負荷の低い洗剤利用

- ・ 客室内に備え付けのシャンプー・リンス・ボディーソープ類は全て石油系の合成化学成分を使用していない無添加の製品を用意(小笠原父島くつろぎの宿てつ家)

③ 環境に配慮した建築

○屋上緑化

- ・ 屋上緑化は都市部におけるヒートアイランド現象の緩和や大気汚染の浄化、雨水の流出抑制に効果を発揮する。また、緑化部分の直下階の室温が 2～3℃下がることによる省エネルギー効果も期待できる(帝国ホテル)

○環境に配慮した建築材料の使用

- ・ 建築材料には環境共生の観点から、有機溶剤を含む接着剤、塗料、ワックスは使用していない(小笠原父島くつろぎの宿てつ家)

④ 地域の食材

- ・ 無農薬、有機農法で作られた安全、安心な食材(調味料)を出来る限り使用。料理のメニューに小笠原産の食材を出来る限り取り入れ、農産物、海産物の移動に伴うエネルギー消費の軽減に協力(小笠原父島くつろぎの宿てつ家)

(4) スローツーリズムによる環境負荷の低減効果

広域観光ツアーのCO₂排出量原単位とスローツーリズムのCO₂排出量原単位の比較

本調査のシミュレーションでは、既存の広域観光ツアー^{注1)}における地域内移動（2次交通としての観光バス、概ね2泊3日コース）によるCO₂排出量は、ツーリスト一人当たり平均約19.5kgである。

これに対し、瀬戸内海スローツーリズムのモデルルート^{注2)}における地域内移動によるCO₂排出量は、貸切バスを利用した場合に、ツーリスト一人当たり平均約3.9kgである（広域観光ツアーの2割水準）。これは、主として移動距離が短くなっていることによる。

注1) 既存の広域観光ツアーについては、東京を発着とする瀬戸内海に関連したパッケージツアーで2005年7月出発分の15件の2次交通について試算した。

注2) モデルルートについては、本調査で設定した瀬戸内海スローツーリズムのモデルルート（2泊3日で瀬戸内海をまたいで3地域程度をつなぐルート）7ルートの2次交通について試算した。それぞれの移動距離の平均は、既存ツアーでは約630km、モデルルートでは約150kmとなっている。

現状の広域観光ツアーによるCO₂排出量

1次交通に航空機を利用する観光客の場合、2次交通として貸切バスを利用する長距離駆け足型の旅行形態が普及しており、これにより瀬戸内海地域では年間約14,300トンのCO₂を排出しているものと推計される。

交通機関の選択

団体型のスローツーリズムプログラムの場合、20人程度の少人数であれば、大型観光バスではなく、中型観光バスを利用することは、環境負荷の低減効果が大きい。また、地域内移動をすべて既存の公共交通機関によるものとすれば、それによる新たな負荷は生じないと考えられるので、CO₂排出量はゼロとなる。

スローツーリズムへの転換を進めた場合の広域観光ツアーCO₂排出量削減の可能性

スローツーリズムへの選好度、地域の公共交通利用の選好度を考慮すると、スローツーリズムを導入した場合、瀬戸内海の広域観光に伴うCO₂の約49%（約7,000トン）を削減することが可能である。

換言すれば、瀬戸内海の広域観光においては、スローツーリズム型を導入した場合、現状の入り込み客数を倍増しても、CO₂排出量を維持することができる。

即ち、環境負荷低減に配慮しつつ広域観光客の増加を図ろうとした場合、スローツーリズムの導入が有効である。

(5) 瀬戸内海スローツーリズムの創出に関する支援施策一覧

瀬戸内海スローツーリズムに利用できる国の主な支援施策を下記に掲げる。このほかにも、各県で用意している関連施策もあるので、問い合わせをするとよい。

国の主な支援施策

| | |
|-----|--|
| 事業名 | 農村コミュニティ再生・活性化支援事業 |
| 概要 | 農村コミュニティの再生・活性化に向けて、行政の枠を越えて活動するNPO法人や団体等の多様な主体の参画により地域づくりを推進していくことが効果的と考えられ、これらNPO法人等の参画を促すための民間主導型の事業制度を創設し、農村コミュニティの再生・活性化を促進する。 |
| 窓口 | 農林水産省中国四国農政局農村計画部農村振興課農村整備計画係 TEL086-224-4511 (内線 2521) |
| 事業名 | サービス産業創出支援事業 |
| 概要 | 集客交流サービス 地域の交流人口を増加させ、かつ、滞在価値を増幅するユニークなサービス提供がなされる集客交流サービス産業の創出を促進する。 |
| 窓口 | 経済産業省中国経済産業局産業部産業振興課(投資交流・サービス担当) TEL: 082-224-5655 経済産業省四国経済産業局産業部流通・サービス産業室 TE: L087-831-3141 |
| 事業名 | 小規模事業者新事業全国展開支援事業 |
| 概要 | 全国商工会連合会・日本商工会議所と各地の商工会・商工会議所及び都道府県商工会連合会が連携して、小規模事業者による全国規模のマーケットを狙った新事業展開を支援し、小規模事業者の経営の向上を図る。 |
| 窓口 | 経済産業省中国経済産業局産業部産業部中小企業課 TEL: 082-224-5661 経済産業省四国経済産業局産業部産業部中小企業課 TEL: 087-831-3141(代) |
| 事業名 | まちづくり交付金 |
| 概要 | 地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした個性あふれるまちづくりを実施し、全国の都市の再生を効率的に推進することにより、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図る。 |
| 窓口 | 国土交通省中国地方整備局建政部都市・住宅整備課企画調査係 TEL: 082-221-9231(代) 国土交通省四国地方整備局建政部都市・住宅整備課企画調査係 TEL: 087-851-8061(代) |
| 事業名 | 都市地方連携推進事業 |
| 概要 | 都市と地方の農山漁村等の市町村や住民等が連携・参画して都市地方連携プログラムを策定し、プログラムに基づき実施される交流推進のための地域活動、施設整備、社会実験等を実施する。(実施期間は原則3か年度) |
| 窓口 | 国土交通省都市・地域整備局地方整備課 TEL: 03-5253-8404 |
| 事業名 | 地域資源活用構想策定等支援調査 |
| 概要 | 広域にわたる共通資源活用のため連携して行う地域づくりに関する構想策定の取組や、地域住民が活動を起こす「きっかけ」となる地域資源の再発見等の地域づくりの取組を推進するため、地域の課題に即した社会実験的な取り組みなどにより、地域資源活用手法の検討分析を地元の官民一体となって実施し、循環型社会形成の共通認識を深める。 |
| 窓口 | 国土交通省都市・地域整備局地方整備課 TEL: 03-5253-8404 |
| 事業名 | 観光地域づくり実践プラン |
| 概要 | 外国人観光客の増加、地域の経済活性化等を目的として、多様な地域資源を最大限に活用しながら、地域の幅広い関係者が一体となって、観光を軸とした地域づくり(観光地域づくり)を推進する取組みを支援する。 |
| 窓口 | 国土交通省中国地方整備局企画部広域計画課 TEL: 082-221-9231 国土交通省四国地方整備局企画部広域計画課 TEL: 087-851-8061 国土交通省中国運輸局企画振興部観光振興課 TEL: 082-228-8701 国土交通省四国運輸局企画振興部観光振興課 TEL: 087-835-6357 |
| 事業名 | 観光ルネサンス補助事業 |
| 概要 | 地域で観光振興に取り組む民間組織の事業に要する経費の一部を国が補助することにより、アイデアとやる気に満ちた民間による、国際競争力のある観光地づくりを促進する。 |
| 窓口 | 国土交通省中国運輸局企画振興部観光振興課 TEL: 082-228-8701 国土交通省四国運輸局企画振興部観光振興課 TEL: 087-835-6357 |

(6) 地域資源発掘アンケート調査票例

地域資源・新たな集客交流サービスに関するアンケート調査 (例)

■ 貴団体の団体名・回答者名・連絡先をご記入ください。

| | | | | | |
|-----|----------|---|------|---|-----------|
| 団体名 | | | 回答者名 | | |
| 連絡先 | 〒 | — | TEL | — | — FAX — — |
| | E-mail : | | | | |

既存観光資源の把握

問1 あなたの地域において、観光資源として人を集めている代表的な地域資源（歴史・文化資源、自然資源、景観、お祭り、イベント、各種体験、食など）の名称をご記入ください。

| | |
|--------|-------|
| 観光資源 1 | _____ |
| 観光資源 2 | _____ |
| 観光資源 3 | _____ |

複数回答欄設定
売り出したい観光資源・新たな集客サービスの把握
知名度・実績も合わせて把握

問2 あなたの地域において、今後、人を呼び込んでいくため、積極的に取り組んでいこうとされていること、積極的に売り出していきたい地域資源・新たな集客交流サービスがあれば、その取り組みの概要をご記入ください。また、取り組みの知名度と取り組み実績を4段階で評価した場合の水準に該当するかも合わせてご記入ください。

なお、この取り組みをリードしている団体、キーパーソンがいらっしゃれば、可能な範囲で結構ですので併せてご記入ください。

| | |
|---|---|
| 【知名度】 1：一部の域外の人にも知られている 2：地域の多くの人知っている 3：地域の一部の人が知っている 4：地元のごく少数の人しか知らない | 【実績】 1：何度もイベント等を開催している 2：1・2度人を集めてイベントを行ったことがある 3：具体的活動に向けて検討中 4：アイデアが出ている程度で未着手 |
|---|---|

| 取り組み概要 | 知名度 | 実績 |
|--|-----|----|
| 地域資源・新たな集客交流サービスの名称： _____ 概要 中核組織の名称： _____ 中心人物(キーパーソン)： _____ | | |

地域資源・新たな集客サービスを活かした広域ルート形成意向・スローツーリズム参画意向などを把握

問3 貴団体では、地域資源、新たな集客交流サービスを広域的な観光ルート形成に活かしたいとお考えですか？ 以下の中で、最もお考えに近いものに○印をお付けください。

| |
|---|
| 1. 広域的な観光ルートの中で是非活用したい 2. 可能であれば、広域的な観光ルートの中で活用したい 3. 広域ではなく、地域完結による観光を目指している 4. 特にどちらとも言えない 5. その他 (_____) |
|---|

問4 本調査では、瀬戸内海スローツーリズムに適した地域資源の掘り起こしと新たなツアールート形成を目指しております。このため、瀬戸内海沿岸地域の中でモデル的に、地域資源の掘り起こし・モデルルートの検討・モニターツアーの実施などに取り組んでいただける地域を検討しています。

貴団体では、こうしたモデル地域として、本調査に参画したいとお考えでしょうか？ 該当するものに1つだけ○印をお付けください。

| |
|--|
| 1. 是非、参画したい 2. できれば参画したい 3. 今のところ、特に参画したいと思わない 4. その他 (_____) |
|--|

(ご協力ありがとうございました。)

(7) 地域スローツーリズム評価調査票例

地域における環境・景観・新しい集客サービス調査 (例)
(〇〇地域：住民対象アンケート)

回答日 平成18年 月 日 ()

あなたの年齢 1. 20才未満 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60歳代 7. 70歳代以上

あなたの性別 1. 男性 2. 女性

あなたの住所 _____市・区・町・村 _____ (番地など詳細は結構です)

問1 〇〇地域における観光資源、新たな集客サービス、環境・景観について、どのように評価されますか？
また、どういう点でそう思われますか？具体的にご記入下さい。

| | 評価の程度 | | | | | | どういう点でそう思いますか？ 具体的にご記入下さい。 |
|----------------------|----------------|----------------|----------|----------------|----------------|-----------------|-------------------------------|
| | 1. 大変良 い | 2. やや良 い | 3. 普通 | 4. やや悪 い | 5. 大変悪 い | 6. わか らない | |
| 【既存の観光資源】 | | | | | | | |
| (1) 〇〇資料館 など | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 記述欄は できるだけ 大きく |
| (2) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | |
| 【新たな集客サービス】 | | | | | | | |
| (1) 観光ボランティアガイドによる案内 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 記述欄は できるだけ 大きく |
| (2) 〇〇体験 など | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | |
| 【環境・景観】 | | | | | | | |
| (1) 〇〇からみた海の景観 など | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 記述欄は できるだけ 大きく |
| (2) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | |

地域で評価して欲しい項目を設定する
5〜10程度

問2 〇〇地域における次のような観光資源、新たな集客サービス、環境・景観について、将来どうすべき(護
りたい、充実したい、改善したい)とお考えですか。

充実したい、改善したいとお考えの場合は、具体的にどのような点かについて、お書き下さい。

| | 評価の程度 | | | | 左記で2又は3と回答された 場合、具体的にどのような点 かについてお書き下さい。 |
|----------------------|--------------------|---------------------------------|-----------------|-----------------|--|
| | 1. 現状通り 護りたい | 2. 現状も良 いが更に 充実した い | 3. 改善した い | 4. わから ない | |
| 【既存の観光資源】 | | | | | |
| (1) 〇〇資料館 など | 1 | 2 | 3 | 4 | 記述欄は できるだけ 大きく |
| (2) | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 【新たな集客サービス】 | | | | | |
| (1) 観光ボランティアガイドによる案内 | 1 | 2 | 3 | 4 | 記述欄は できるだけ 大きく |
| (2) 〇〇体験 など | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 【環境・景観】 | | | | | |
| (1) 〇〇からみた海の景観 など | 1 | 2 | 3 | 4 | 記述欄は できるだけ 大きく |
| (2) | 1 | 2 | 3 | 4 | |

問3 時間をかけてゆっくり回る観光地としての〇〇地域の魅力度についてお伺いします。次の項目についてそれぞれ総合的に見てどう評価されますか？またその理由について、具体的にお書き下さい。

| | 評価の程度 | | | | | | どういう点でそう思いますか？具体的にご記入下さい。 |
|---------------|------------|-----------|-------|-------------|-------------|----------|---------------------------|
| | 1. 大いに魅力あり | 2. やや魅力あり | 3. 普通 | 4. やや魅力に乏しい | 5. 全く魅力に乏しい | 6. わからない | |
| (1) アクセス・交通条件 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | |
| (2) 環境・景観 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | |
| (3) 観光資源 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | |
| (4) 新たな集客サービス | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | |
| (5) 名物・特産品 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | |
| (6) 祭り・イベント | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | |
| (7) 食事（料理・食材） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | |
| (8) 宿泊施設 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | |
| (9) 以上を総合的に見て | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | |

地域で聞きたい項目を自由に設定する

問4 〇〇地域を訪れる方々からの評判が良いもの・ことを教えてください。（場所、人、食事、雰囲気など何でも結構です。）

問5 時間をかけてゆっくり回る観光地としての〇〇地域に足りないものは何でしょうか。今後、何が必要だと思いますか？ご自由にお書き下さい。

～以上でアンケートは終わりです。ご協力どうもありがとうございました。～

4. スロートーリズムの定義等に関する参考資料

(1) スロートーリズムとは

主にインターネットのホームページから、スロートーリズムの意味についてふれているフレーズを抽出して、以下に列挙する。

妙高市スロートーリズム

<妙高スロートーリズム拠点づくり地域再生計画>

(www.kantei.go.jp/jp/singi/tiikisaisei/kouhyou/040621/dail/081.pdf)

遊休状態の保育園を「スロートーリズム拠点施設」として転用・整備し、都市と農村との交流・対流を促進するとともに、スローライフ、アート&カルチャーライフ等の拠点施設として事業展開し、食・人・自然などの地域資源を活用した新たな産業や農村地域の活力創出を目指す

<妙高市スロートーリズム「ふれあい」「交流」「ようこそ心の故郷へ」>

(www.city.myoko.niigata.jp/guide_gyosei/siseigaiyou/pdf/P12.pdf)

澄みきった青空・土の感触

子どもたちに伝えたい

妙高山麓の広大なフィールドの中で、自然に身をまかせ、学び、体験し、ふれあいながら、ゆったりとした時の流れを感じる旅。そんな優しい時間の中で、本来の自分を取り戻したり、新しい自分を発見したりしながら、心のふるさと探しをしましょう。

長良川流域スロートーリズム推進事業計画

(www.chiikidukuri.net/hokokusyo/

[03h15_tiikishigenkatuyokoso/02honpen/3-3-1gifu.pdf](http://www.chiikidukuri.net/hokokusyo/03h15_tiikishigenkatuyokoso/02honpen/3-3-1gifu.pdf))

1) 地域のおさを知る：地域性・歴史性

- ・地域の自然や文化，伝統と言う歴史が育んだ「本物」に触れることができる。

- ・各地域が持つ良さを知り、「旬」を感じることができる。

例) 地域固有の食材を最大限活かし、地元で普段食べている季節の味を供した方がよい。地場産食材によって、手間をかけて調理された料理の方が魅力的

2) “ゆったり”と良いものを味わう (Slow で good なものを見つめ直す)

- ・土地の魅力を五感で感じるには時間が必要

- ・短い間に盛りだくさんの内容を詰め込まない，“スロー”な旅のスタイルである。

- ・ストレス社会において、のんびりとした時間を過ごすことで、リフレッシュできる。

3) 学びたい人に満足してもらう

- ・消費者の育成とインタラクティブ(双方向性・交流)

- ・より深く(じっくりと)感じてもらうためには、サポートやガイドが不可欠

- ・単なる物見遊山的な従来型の観光としないためにも、旅行中の説明と旅行前後のフォローアップが必要

- ・地域と旅行者との交流という側面が重視され、見るという一方的

な行動ではなく、地域（住民）との対話によって豊かな時間が生み出される。

4) 環境

- ・歴史が育んだ文化は、長年にわたって、その場所に適した技術を生み出した人智の帰結したものである。それは環境負荷が少なく、持続性が高いはずであり、逆に持続性を含まない地域文化は、とっくに無くなっていたはずである。
- ・持続可能な文化は、「無理がない」文化である。スローツーリズムは、そうした人智を知る旅でもあり、それを守っていく一助になっている。

岐阜市スローライフ推進実行委員会規約

(www.city.gifu.gifu.jp/slowlifecity/committee/index.html)

人々の価値観や生き方は多様であることを前提に、20世紀型の効率性や機能性一辺倒のライフスタイルを見直し、暮らしのスローな部分に光を当てることにより、地域の自然をはじめ、歴史や伝統・文化の中の個性ある岐阜らしいまた、岐阜ならではの「ほんもの」を再評価し、再生・復活させることを目的とする。

そして、地域の「ほんもの」や人々の生活文化を味わう、スローツーリズム・スローフード・スローインダストリー等に関する知識や情報を、来訪者や市民の皆さんが得ることができ新たな産業の創出を図り、さらには、市民の皆さんと行政との協働による実践活動を通して、スピードライフと共生できる未来型地域社会の構築することを目指す。

株式会社 南信州観光公社 代表取締役社長 新井徳二 氏

(www.innovative.jp/2004/0921.html)

(イノベティブワンインタビュー (株式会社日本LCA))

「体験型修学旅行」と言うと、ややもするとお客様（学校）からいろいろと注文をいただくんですけど、うちでは一切そうした注文は受け入れませんし、ホームステイを受け入れてもらうお百姓さんの側にも、生徒さんが来たからといって特別なことはしないで、日常生活そのまんまにやってもらうようお願いしています。何も繕わないで、ありのまま、と。

・・・

だいたい各家庭に4人ずつくらいに分かれてホームステイするんですが、家庭によってそれぞれ生活は違いますから、それぞれの生徒さんたちがそれぞれの、でも全員が本物の体験をするわけです。生徒さんが滞在するのは、たかだか丸一日程度なんですけれども、それでもすごく感動して帰られますね。

・・・

「手軽に体験できるから」「自分に都合が良い旅程が組めるから」それで観光客が増えるというものじゃなくて、むしろ融通が利かなくなっちゃって、「本物」が良いんですよ。「本物」だからこそ、特に都会から見られる生徒さんには、すごい感動を与えるんですよ。

日航財団「団塊のツアーとは」

(www.jal-foundation.or.jp/html/tourism/tourism3.htm)

スローフードから派生したスローライフの考え方の延長線上に、時間消費型の団塊世代が好むであろうスローツーリズムがある。団体ではなく、夫婦または極めて少人数の仲間で行くツアーとなる。

岐阜市は「長良川流域スローツーリズム」と称するモデルを提示している。従来型の1〜2カ所を短時間で見て回る点の旅行ではなく、長良川流域2市4町にまたがる部分を面でとらえ、「居れば気持ちがゆったりとする、いい気分を味わえる」ツアーにすることを理想とし、時間をたっぷりかけて一帯を楽しんでもらおうという計画である。

具体的なイメージとしては、『岐阜市周辺に残されたまち並みを歩き、鶺鴒などの本物を感じる文化に触れ、名水百選に選ばれた長良川の水が育んだ酒を流域に点在する酒蔵で楽しみ、豆腐・醤油・うどんなどの食材の生産現場を訪れ、これらを食べる。また地域の住民ボランティアからの説明を受けると同時に交流を図る…』といったツアーが検討されている。この形態のツアーはまた地域住民にとり、自分たちの住んでいる長良川流域の良さを再発見できるという副次的効果をもたらすことになるとともに、長期に滞在することからの経済的効果も期待できる。

スローライフ・ジャパン理事長 川島正英さん

(eco.goo.ne.jp/nature/taiken/miyakojima/03_1.html)

スローツーリズムという考え方が行き渡りつつありますが、それがどうも個人の生活のレベル、癒しだとか、のんびりしようといったとらえ方がメインなんです。私たちとしては、もっと広く社会の変革を目指したい。その第一歩として、まず地域の再生、まちづくり、地域の活性化の一手段としてスローライフ運動をとらえて、地域全体の空気を変えていく。中央の構造改革はなかなかだが、自治体から、政治、経済、文化を変えていくことができるのではないかと考えています。

J T B F 第 1 3 回 旅行動向シンポジウム：“スローツーリズム”が観光の原点を呼び戻す？！

(www.jtb.or.jp/seminer/travel/031224.html)

“スロー”という言葉の中には、文字通りの意味である単に“ゆっくり〇〇する”というだけでなく、異なる時間の流れを体験することによる“本来の姿を取り戻す(回復する)”というニュアンスも含まれているのです。この考え方は、“旅行の本来の姿”と言われている“スローツーリズム”にも当てはまるはずです。

今後の旅行には+αの付加価値が求められています。自然に触れあい自然について学ぶ“エコツーリズム”や温泉を活用し健康増進を図る“ウェルネスツーリズム”などは付加価値を取り込んだツーリズムであり、地域の魅力の1つである“食=スローフード”を味わうことを目的としたツーリズムも同様に付加価値を有するものと捉えることができます。これらには共通して、“滞在=日常とは異なる時間・空間で過ごす”という時間軸があるように感じられます。

エクアドル スローツアー vol.5 人と人、人と自然のつながりなおしの旅！

(www.sloth.gr.jp/aboutus/event/2005/0509slowtour_1.htm)

ナマケモノ倶楽部の「スロー」とはつながり。そして、いのちを大事にするということ。スローツアーは、エクアドルの自然の中に身を置き、スローを実践しているその地の人々との交流を通し、肌

で「スロー」を感じてもらうことを目的としています。「今、ここ」を感じることで、人と人、そして人と自然のつながりを、そして自分のライフスタイルを見直すきっかけづくりを目指しています。

福岡県朝倉郡東峰村グリーンツーリズム

(www.vill.toho.fukuoka.jp/tourism/countrywalk/cw01.php)

スローツーリズムは、ゆっくりと旅することで、自分自身はもちろんのこと、その地域の自然、食、文化を見つめ直し、それらを探り結びつけていく旅。そこには、今まで知りえなかった自然の息づかい、その地域ならではの知恵がいっぱい詰まった昔ながらの習わし、親子代々伝わる手の込んだ食など、驚くほどの発見がある。そして、なによりそこには、生きる喜びと豊かな暮らしがあふれていることに気づく。

坂井けんすけ「スローツーリズムひょうご」

(www.d7.dion.ne.jp/~kensuke1/)

1. 消えて行く恐れのある地域独自のツーリズム素材（自然・文化・歴史・人・祭り・景観など）を守る。
 2. 地域社会に根ざしたツーリズムにより地域の活性化を図る。
 3. 子供たちを含め、現代人に新しい余暇の過ごし方を提供する。
- 「スローツーリズム」とは、簡単に言うと、「ゆっくり、じっくり、のんびりと」、「対話する」旅であると考えます。

富山市越中八尾スロータウン特区「スローツーリズム」の呼びかけ

(www7.city.toyama.toyama.jp/slow/yatsuo/02.html)

都市の喧噪や日々の慌ただしさから離れ、緑豊かな八尾の自然や農山村の人々とふれあいながら、ゆっくりと、心やすらぐ休日を過ごしてみませんか。四季折々のふるさとの自然や文化・伝統など、それぞれの地域の魅力をたっぷりと感じられることでしょう。自然散策や農業体験をはじめ、各種体験プログラムがお楽しみいただけます！

生活経済政策 2002年11月号「都市・田園交流圏づくりと公共事業」佐藤誠

(www.link.kumamoto-u.ac.jp/14/d2/d23/know/archive/files/10-1.pdf)

従来型のツーリズムがビジネスマン名所旧跡めぐりの観光や、高級リゾートであったのに対して、人や自然、地域の伝承文化とのふれあいがテーマになっており、共通するのがスローな旅や滞在が眼目になっている。・・・過疎地域での内発的・自律的スローツーリズムは、農村と都市との住民相互の理解と共感によって新たな都市・農村関係を結ぶ契機として重要である。

T・TAT 地域連携軸（丹後、但馬、阿波、土佐）「スローライフマップ」

(map.t-tat.or.jp/)

このスローライフマップでは、T・TAT地域連携軸上の自然・味覚・文化などの地域固有資源のスポット情報やおすすめコースなどを閲覧・検索することが出来ます。

お気に入りのスポットを探して、ゆっくりと地域の魅力に触れる旅“スローツーリズム”に出かけてみませんか。

茶谷幸治「新しい時代の観光」講演

(www.aichi-iic.or.jp/co/o-asahi-kai/sub13.htm)

「スロートーリズム」はただ単に、旅行ガイドブックを見てあちこちまわるのではなく、自分なりの旅行を楽しみましょうということ。遠くのおいしいものを出すお店に行くということでも「スロートーリズム」だ。

大阪周遊温泉スタンプラリー（(財)大阪観光コンベンション協会）

(www.octb.jp/onsen_stamp/)

自然や文化、滞在地の人々との交流を楽しみ、心のおもむくままに自分の時間を楽しむ旅-スロートーリズム-が注目されています。スロートーリズムは私たちの心にゆとりや安らぎをとりもどしてくれます。

岩国地域魅力度アップ戦略報告書

(www.pref.yamaguchi.jp/gyosei/shogyo-k/pdf/iwakuni.pdf)

スロートーリズムとは、ゆっくりと時間をかけて味わう旅行。また、如何に早く目的地に到達し、どれくらい沢山の観光スポットを回れるかに価値を置いた現在の旅行のあり方を見直すこと。

観光とコミュニケーション -そのダイナミズムを探る- (阪南大学国際観光特別講座) 国際コミュニケーション学部教授 安福恵美子

(www.hannan-u.ac.jp/learn/865/2001/2.html)

マス・ツーリズムに代わる観光形態として持続可能な観光（サステイナブル・ツーリズム）に対する関心が高まっているなかで、近年、観光におけるインタープリテーションの役割が注目されている。・・・ここで重要な点は、対象に対する理解、理解による対象への重要性の認識、さらには認識を通じて対象の保護に役立つインタープリテーションの役割だ。・・・それは、地域の文化（遺産）や自然を呈示することによって、ツーリストもそのマネジメントに引き込むような役割であることから、これまで受け身として捉えられることが多かったツーリストが、観光対象の文化や自然の保護に関わるような装置として作用する。

バックパッカーの観光学-オーストラリアにおける分析-

財団法人 アジア太平洋観光交流センター 平成10年度 観光に関する学術研究論文 高容生

(nippon.zaidan.info/seikabutsu/1998/00495/contents/005.htm)

(1970年代以降) 新たな一群のツーリストが生まれたのである。70年代のこの旅行者をRileyは「long-term budget traveler」と呼んだ。彼らはdrifter, wandererであっても、60年代のそれではない。Rileyはlong-term budget travelerの旅の動機を次のように述べている。「彼らは退屈な日常、単調な生活、仕事・キャリアへの重圧、結婚に対するしがらみなど現代のストレスからの離脱として旅をする。その期間は彼らにとっては人生での重要な中継地点であり、日常生活を離れ、娯楽、文化、療養、スポーツなどに親しむのである」。・・・Rileyは「今日の若い旅行者達はヒッピーや物乞い、忌み

嫌われていた反社会運動者とは明らかに異なる。西洋社会は大きな変化を迎え、また現代の長期旅行者はその変化を反映している。このような旅行者は人生の中継地点を迎えている中流階級のものが多く、初期の旅行者に比べて平均年齢も高く、大学卒業者も多く、目的意識を欠如した放浪者ではない。柔軟な行程において旅をし、(最終地点には)元の彼らの生活の場所へ戻ろうとしているのである」と述べている。

・・・バックパッカーは現代観光においてはマス・ツーリズムと対置する者として把握され、同時に1980年代に提唱された「もうひとつの観光」を代表するツーリストといえることができる。

・・・

オーストラリア政府が出した戦略は政府と観光産業が協力し、バックパッカーの市場調査、バックパッカーのための低廉な宿泊施設、交通機関の整備、安全性、ビザの発給、産業調整、雇用、地域への理解推進などの点で問題点を認識するというものであった。具体的内容としては、1994-95年に政府はナショナル・バックパッカー・プログラムという計画を掲げた。それは向こう4年に渡って400万豪ドルがそのプログラムにあてられ、その内65万豪ドルがオーストラリアのバックパッカー市場を発展させるためのプロジェクトのために自治体や地方観光協会、地元のコミュニティーに割りあてられている。その為300以上のバックパッカーの宿泊施設のポケットガイドを発行し、またオーストラリア・オートモービル・アソシエーション(AAA)を新たに組織し、バックパッカーの宿泊施設を清潔さ・機能性などの項目において5つにランク付けするなど、宿泊施設・サービスの向上を促進することでバックパッカーを全面的に支援した

・・・

バックパッカーから想像されるイメージは「貧乏旅行者」であるためバックパッカーの消費額など経済的インパクトは一般のツーリストよりも遙かに小さいと思われていた。たしかにバックパッカーは低廉な宿泊施設を好むというその特徴から、そのように想像されるのは仕方のないことであろう。しかし低廉な宿泊施設を利用していても、長期に渡って滞在する彼らの宿泊費用・生活費用・観光費用は非常に高額かつ地元地域に分散的に波及することより、バックパッカーの経済的インパクトは一般のツーリストよりも大きいという結論に達する。

・・・

(キーワードは) 持続可能な観光(sustainable tourism), もうひとつの観光(alternative tourism), 新しい観光(new tourism)などである。それは今までのマス・ツーリズムのように定式化・パターン化された大規模な観光形態ではなく、個人へとシフトし、柔軟で多様化し、環境問題などをも考慮した観光形態である。

フランク・カロリン助教授の講演「瀬戸内海を楽しむ・スロートーリズムの可能性」

平成18年1月20日瀬戸内海スロートーリズム講演会より

(環境負荷に配慮した瀬戸内海スロートーリズム創出調査第4回地域研究会(合同会))

スロートーリズムとは持続可能な観光。

すべての階級の人々の多様な要求を、充実した観光施設と安定し

た自然環境において、そして地元住民の利害を配慮しながら最適に満足させる。

その特徴は次のとおり。

| ハード | ソフト＝スロー |
|--------------|---------------|
| 大衆観光 | 家族、個人、友人同士旅行 |
| 時間的な余裕がない | 時間的な余裕がある |
| 高速交通手段 | あまり早くない交通手段 |
| 決まった予定 | 自発的な行動 |
| 自分の生活様式を持ち込む | 生活様式を旅行先に合わせる |
| 見学 | 体験 |
| 精神的な準備なし | 目的地について事前に学ぶ |
| お土産 | 思い出、日記、新しい体験 |
| 好奇心 | 地元、環境への思いやり |
| うるさい | 静か |

スローツーリズムの位置づけ

様々な概念

Soft Tourism

Green Tourism

方法

Ecotourism

目的地

Slow Tourism

Agritourism

Sustainable Tourism

(2) ツーリズムあれこれ

スローツーリズムに関連した概念について、既存文献等を引用しながら解説する。

ツーリズムとは

小学館プログレッシブ英和中辞典

- 1 旅行, (特に) 観光旅行. 2 観光 (事業), 観光案内業. 3 (集合的) 観光客.

観光学辞典 (長谷政弘編著)

自由時間における日常生活圏外への移動をともなった生活の変化に対する欲求から生じる一連の行動。

国連世界観光機構

一日以上、一年以下の期間に、居住地を離れて旅を行い滞在する

こと。その目的は知人や親戚を訪問すること、ビジネス、コンベンション、アミューズメント、保養、スポーツ、学習、文化交流や姉妹都市交流、レクリエーション、観光(sightseeing)など様々である。

マスツーリズムとは

観光学辞典（長谷政弘編著）

大衆観光または観光の大衆化のこと。元来暇を有しかつ資産を有する特権階級のみにも可能であった旅行は、旅行の商品化によって低廉化し大衆に普及した。・・・よくいわれる「マスツーリズム」批判といったときは、観光の大衆化そのものを批判（ないしは否定）しているのではなく、大衆化のプロセスにみられる、大量化した観光にともなって引き起こされた観光地の自然や文化財の破壊、調和しない観光施設、あるいは観光客自身の消極的な行動などをいう場合が多いのに注意を要する。

オルタナティブツーリズムとは

オルタナティブ (alternative) は、「代替」「二者択一」という意味をもつ形容詞。「もうひとつの」「既存のものと取って替わるべき新しい」という語感を持ち、たとえば、1990年代のカウンター・カルチャーを表す名詞としても用いられる。

オルタナティブテクノロジーは、ATという省略表示も行われる一般的な用語であり「従来の技術に替わる、資源の循環や新エネルギー、省エネルギーをめざす新しい技術」を意味する。オルタナティブツーリズムも、同様の主旨をもった表現である。

観光学辞典（長谷政弘編著）

大量観光の意味でのマスツーリズムに対するもうひとつの観光ないし別の形態での観光をいう。観光の大衆化にともなって観光地において生じてきた観光の弊害（自然・文化財・景観などの破壊、騒音、交通渋滞など）をできるだけ少なくし、観光の経済的効果はその地に及ぼし、観光客も十分に満足するような観光の形態の総称として使われる場合が多い。・・・少人数での能動的な行動形態であり、観光地も計画的で既存施設の利用を中心としている場合が多く、自然、文化財、伝統などと共存したものといえよう。

十和田湖「オルタナティブツーリズムへ出掛けよう」

オルタナティブツーリズムとはマスツーリズムの反省から唱えられたもので、これまでにない、或いはおざなりではない旅の姿を目指します。環境保全のために観光を活用しようという-サステイナブルツーリズム（持続可能な観光）-とも呼ばれます。

サステイナブルツーリズムとは

サステイナブル (sustainable) は、通常「持続可能な」と訳され

る言葉であり、1990年代以降環境のキーワードとして重視されている。

1992年6月にリオデジャネイロで179ヶ国が参加して開催された“環境と開発に関する国連会議”では、『環境と開発に関するリオ宣言』『行動計画（アジェンダ 21）』『森林原則声明』『国際連合気候変動枠組み条約』『生物多様性条約』の5つの文書が採択された。ここでは「持続可能な開発に関するあらゆる分野を網羅した」プランがまとめられ、それを実現するための地球的規模のパートナーシップの構築にあわせて、それぞれの地域（地方自治体レベル）でのローカル・アジェンダの策定・実施が謳われている。

『環境と開発に関するリオ宣言』と『アジェンダ 21』の主要なふたつの文書は、あわせて約15万語からなっているが、持続可能（sustainable, sustainably, sustainability）又は持続（sustain）という言葉は、この中で実に775回登場する。この言葉の示す概念は、それに先立つ環境と開発のための世界委員会（ブルントランド委員会）の報告書『我ら共有の未来』において準備されたものである。同報告書では「環境的に見て健全な経済が発展する新時代」の到来を訴え、次のように述べている。

「人類には、開発を持続可能なものにする能力がある。そうすることで、世代が替わってもその世代の人たちが自分のニーズに応える能力を弱めることなく、現代のニーズと合致することを確認できるはずだ」

このような概念を観光にあてはめたものが“サステイナブルツーリズム”である。

観光学辞典（長谷政弘編著）

持続可能な観光（サステイナブルツーリズム）とは、環境と観光開発を相反するものとしてではなく、互いに依存するものとして捉え、環境を保全してこそ将来にわたっての観光開発が実現できるとした概念である。

平成15年版 環境白書

リゾート開発型の観光地では、その多くがブームの終焉とともに観光地としての魅力が失われたのに対して、サステイナブルツーリズムは、地域にある、自然、文化、歴史遺産を活用し、時には新たなアイデアを導入することで、環境の保全、地域コミュニティの維持、長期的な経済的利益を同時に達成することに特徴があります。

国連世界観光機構

持続可能な観光開発とは、未来の人々の機会を守り強化しつつ、現在の旅行者とホスト地域がもっている要求に応えるものである。それは、あらゆる資源を次のようなしかたで管理することを意味すると考えられる。すなわち、もとのままの文化、生態系が必要とするプロセス、生物の多様性、生活支援システムを維持しつつ、経済的、社会的、美的なニーズを満すことができること。

エコツーリズムとは

観光学辞典（長谷政弘編著）

自然環境の保全を強調している観光形態である。マスツーリズムの弊害の反省から、従来それほど重視されていなかった自然環境の保全という点を強く主張していることが特徴で、1980年代後半に提唱された。・・・単に自然環境を観光対象とするだけではなく、観光行動のために支出される金銭が観光対象となる自然資源の保全のために使用される観光形態をさす場合が多い。

日本エコツーリズム協会

- (1) 自然・歴史・文化など地域固有の資源を生かした観光を成立させること
- (2) 観光によってそれらの資源が損なわれることがないように、適切な管理に基づく保護・保全をはかること
- (3) 地域資源の健全な存続による地域経済への波及効果が実現することをねらいとする、資源の保護＋観光業の成立＋地域振興の融合をめざす観光の考え方である。それにより、旅行者に魅力的な地域資源とのふれあいの機会が永続的に提供され、地域の暮らしが安定し、資源が守られていくことを目的とする

日本自然保護協会

旅行者が、生態系や地域文化に悪影響を及ぼすことなく、自然地域を理解し、鑑賞し、楽しむことができるよう、環境に配慮した施設および環境教育が提供され、地域の自然と文化の保護・地域経済に貢献することを目的とした旅行形態。

国際エコツーリズム協会

環境が保全され、地元民の福利を維持している自然地域へ、責任をもって旅すること。

オーストラリアエコツーリズム協会

エコツーリズムとは、環境と文化への理解、感謝の念、保全の気持ちを育む自然地域体験に主眼をおく、生態学的に持続可能な観光である。

(3) スローフード運動の概要

スローフード運動の経緯

スローツーリズムという言い方は、スローフード運動がさまざまな分野に波及していく中で生まれた。スローフード運動は、「ファーストフードの脅威」に対して起こったもので、1986年、イタリアのブラにおける“アルチゴラ”（後の“スローフード協会”）設立に端を発している。運動のシンボルマークはカタツムリである。

日本スローフード協会の公式HPでの解説では「スローフード運動は、バラエティ豊かな地域の食を再発見し、これを愉しみながら、人が豊かに、そして平和に生きていくうえで欠かすことのできない“食の喜び”を取り戻そうという運動」とされている。

1989年のパリ国際大会におけるスローフード宣言（部分）

食卓で、「スローフード」を実践することから始めよう。ファーストフードの没個性化に対抗し、郷土料理の豊かさと風味を再発見しよう。

生産性という名のもとに、ファーストライフが私たちの生活を変貌させ、環境と景観を脅かしているとすれば、スローフードこそ、今日の前衛的解答である。

真の文化は味覚の貧困化ではなく、味覚の発達にこそあり、そこで歴史や知識やプロジェクトが国際交流することによって文化の発展が始まる。

スローフードは、より良い未来を約束する。

2003年のナポリ国際大会におけるスローフード宣言（部分）

スローな生活という思想を、単に食事を急いでとることに対して反対したり、ファーストフードに反対するためだけのものではなく、時間の価値が認められ、人間と自然が尊重され、喜びが存在理由となる世界を守るために発展させて行かなければならない。・・・動植物の絶滅と戦うために、生物多様性をまもるために、農村文化が遺伝子操作技術の犠牲にならないよう、食に関する伝統技術と知識が失われないよう、そして共生の場が失われないよう、スローフードとともに食卓からはじめよう。